

「第31回学生生活実態調査報告書(令和5年度学生生活実態調査)」の結果に基づく対応の進捗フォローアップ

この表は令和5年11月に実施した第31回学生生活実態調査の結果、「問題がある」、「改善の必要がある」、あるいは「他より優れている」と判断された事項を研究科(教育部)ごとにとりまとめ、その対応計画とその計画についての進捗状況を示したものです。これら事項につきましては定期的に進捗状況を更新していく予定です。学生、教職員のみならずにつきましてはお気づきの点や改善に係るアイデア等がございましたら、下記までお知らせくださいますよう、お願いいたします。

連絡先：徳島大学学生支援課
E-mail: kyoseikatuk@tokushima-u.ac.jp

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等 (2025.3月HP公開内容)	対応計画実行の進捗状況等 (左記のフォローアップ)
	事項(問題点や優れた点)	対応計画等		
総合科学部	「高等教育の修学支援新制度(又は大学独自の授業料免除制度)は知っているが申請していない」とする回答が56%であり、前回調査32%よりも24ポイント増加していた。また「高等教育の修学支援新制度(又は大学独自の授業料免除制度)を知らなかった」という回答が19%で、前回の14%から増加している。こうした制度が十分に知られていないと思われる。	学生に対する告知の仕方の現状を確認し、改善・強化の方策を検討する。制度内容自体、今年度から変更されているのでそうした新しい部分はいずれにしても告知しないといけない。学部内の教育プログラム評価委員会や学部長懇談会に参加する学生に直接、効果的に情報が届きやすいやり方など聞いて、それを生かしたい。	学生に対する告知の実効性を向上するため、学生向けの直接的な機会がある都度、あらかじめ情報提供するように試みた。1年生全員が受講する総合科学入門講義の授業内や、各コースが行うコースガイダンス、学生と学部長・学生委員長との意見交換会、教育プログラム評価委員会などを活用して情報の提供に注力した。	授業内やプログラム評価委員会で紹介された事例を精査するとともに、今年度から多子世帯の支援制度活用による制度の周知が進んだと考えられることからアンケート等による制度の情報周知を測ることを検討中である。
	大学生生活の意義を「勉強や研究」に見いだす割合が総合科学部では36%であり、全学部の中で最低であった。	医・歯・薬・理工・生物資源の各学部は理系分野であり、専門性が明確である故、勉強や研究に意欲を持ちやすいが、総合科学部は基本的に文系であり、かつ学際的・分野横断的に学ぶのが特徴であるため、必然的に勉強や研究の方向性が曖昧になる面がある。その点がこの調査項目の数字に影響していると考えられる。とはいえ、勉強や研究の意欲は就学において必須であるから、その点の改善は重要。部局内の教育プログラム評価委員会や学部長懇談会などで学生の意見を直接聴取し、この点の改善につながる観点を探る。	大学生生活の意義を「勉強や研究」に見出すには、学生自身が自己の学術的関心を高め得るカリキュラムの整備が必要であり、その点、総合科学部では2年次以降のコース選択の制度を改善し、新たに地域デザインコースを設置したので、その点で「勉強や研究」に大学生生活の意義を見いだす学生は増えていくのでは、と期待している。	プログラム委員会や懇談会では勉強や研究への意欲が感じ取れた。新たな地域デザインコースでの学びの充実度を継続的に調査し適宜確認する必要がある。
	総合科学部では「現在悩みや不安がない」と答えた学生の比率は24%であり、全学部の中で最も低かった。一方、総合科学部では「就職や進路に不安がある」学生の比率は56%であり全学部の中で最も高かった。	上述したように、総合科学部は明確な専門性が見出しにくい学部ゆえに、将来の進路・就職についてもはっきりしないことが、こうした不安につながっていると考えられる。引き続き、相談・カウンセリングの仕組みを周知しつつ、とくに就職関係の問題を重視して対応する。1年生の必修授業である「キャリアプラン入門」の内容についても、改善の検討を図る。	明確なキャリアの展望を早期に持てるよう「キャリアプラン入門」の必修の授業について、その内容の検討を行っている。また、総合科学部が独自に設置・運用している就活サポート室においても担当者とともにアドバイス機能の強化を図っている。	総合科学部では、学年を経るごとに専門性がより具体的に実現されることから縦断的な調査が必要であるとともに、キャリアプラン入門のフィードバックを精査し検討する予定である。
	所属学部への満足度では、「満足している」および「ほぼ満足している」の合計が総合科学部は92%で、全体平均の87%を上回り、全体で最も高率であった。また、授業の満足度では、「満足している」および「ほぼ満足している」の合計は、総合科学部は89%で全学平均の83%を上回っている。その一方、授業が満足できない理由として、総合科学部の76%が「授業内容がつまらない」と回答しており、これは全体平均の50%より高い。	学部への満足度は高く、とくに授業に対して満足度が高い一方で、授業に不満な理由として「内容がつまらない」となるのは、上述したように総合科学部は幅広く学ぶカリキュラムなので、学生にとっては必ずしも関心対象でない分野も含まれるゆえ、関心が低くなってつまらないと思えるのではないかとはいえ、教員は学生が受講している以上、その学術的関心を引き出す努力を最大限すべきであり、FDの充実などにより面白い授業の実践に向け、取り組む必要がある。	新たに地域デザインコースを開設したことで、カリキュラムとして学生が興味を持てる有益な授業が増えたと言える。また、従来の個別の授業内容自体も教員個々の自觉に基づく研鑽が必要であるため、この種のFDを強化しようと進めている。	新たに地域デザインコースを開設した点も踏まえ、今年度の授業評価を精査し改めて授業内容を検討する。
	大学入学後のボランティア活動では、総合科学部の38%の学生が何らかの活動に従事している。全体平均の22%に比べるとかなり高く、良い傾向である。	ボランティア活動は単に社会的な貢献のみならず、フィールドワーク的な実践的な授業としても意義があり、また社会における主体的な個を育成する市民性教育においても重要であるから、全学挙げて取り組む意義がある。総合科学部では、教育の観点としてボランティア活動を重視しているが、一層促進したい。	選挙啓発活動をしている総合科学部の学生グループ・TYMEが、総合科学部の同窓会組織・清水会から表彰を受ける等、引き続き活発なボランティア活動が行われている。	ボランティアの機会の提供等を引き続き実施する予定である。

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等 (2025.3月HP公開内容)	対応計画実行の進捗状況等 (左記のフォローアップ)
	事項(問題点や優れた点)	対応計画等		
医学部	悩み、不安がないと答える学生の割合が最も高い。	良い傾向なので特に対応はしない。		
	教員の教え方に工夫が足りないという指摘をする学生の割合が最も高かった。	聞いてよかったと思われる授業を目指して、工夫続けるよう、教員全体に促す。	教授会で情報共有した。アンケート回答の情報が複雑であるため、どこを改善すべきなのか不明であるという問題点も浮かび上がった。	それぞれの教員が指摘を受け、改善をしている。アンケート回答の情報が詳細でないため、具体的には各科目における学生からの直接のフィードバックをもとに改善を続けている。
	オフィスの利用率が特に低い。	直接のメール、manaba、担任による面談など補っている部分があるので、特別な対応はしない。		
	学生行事への積極的参加者が多い。	大学での繋がりが、将来の仕事上の繋がりととなる場合も多いためと考えられるが、良い傾向なので特別な対応はしない。		
歯学部	アンケートの回収率が(前年度より増加したとはいえ)低い	アンケート回答依頼を対面で行う機会を増やす	講義等の際に呼びかけを行ったが回収率増加には繋がらず、さらに効果的な手段を考える必要がある。	講義等での呼びかけに加え、クラスLINEを通じた回答依頼やFormsを用いた回答完了確認等を行い、全学部で1番の回収率となった。今後も引き続き向上に努めて
	アルバイトによって勉学に支障が生じていると回答した学生が(前年度より減少したとはいえ)存在する	担任面談の際に、GPAが芳しくない学生には原因を自己分析させる	学業維持のためにアルバイトが必須の学生には自己分析では問題解決にならず、持続的な経済的支援を受ける可能性を検討するよう伝えた。	奨学金に関する情報について、教務システム及び学内掲示板で通知し、支援を必要としている学生が情報にアクセスできるように努めている
	アルバイトにおけるトラブル経験者が(前年度より減少したとはいえ)存在する	担任面談の際に、トラブルの有無を確認し、トラブルを経験していればアルバイトについてのガイダンスを改めて伝える	アルバイト先とのトラブルがあってもアルバイトを継続したいという学生もいることから、トラブルの深刻度を区別したアンケート内容にする必要を感じた。	トラブルの原因が学生側に起因(勤務態度の不良等)する場合と、雇用側に起因(労働環境の悪化等)する場合があるため、担任面談の際などに原因についての聞き取りを行い情報の収集に努めている
	勉学に悩みを抱く学生が多い	国家試験に合格することが全学年においてプレッシャーとなっているのであれば解決は困難だが、担任面談時にアドバイスやサポートを行うよう依頼する	学生が悩んでいるのは勉学ではなく成績であるケースが多く、国家試験や共用試験に全員が合格し、クラス最下位でも資格取得が可能との期待が持てない限り、悩みを抱く学生はなくなると思われた。	担任、教務委員長、学生委員長が随時学生の悩みを聞く体制を整備し、勉強方法等についてアドバイスを行っている
	教員に相談する学生が少ない	・担任面談の際に相談をしやすい雰囲気作りを進める。 ・講義や成績に関する相談は担当教員のオフィスを活用するよう担任面談時に周知する	全学年で担任との個別面談を行うこととしたので、今回のアンケートでは教員に対する相談は増加すると期待している。一方、講義や成績については担当教員任せになっており、質問しやすい教員とそうでない教員が存在することは避けがたいと思われる。	担任、教務委員長、学生委員長が随時学生の悩みを聞く体制を整備し、面談の時期以外でも相談を受け付ける体制を維持している
	大学事務室の対応に不満が多い	大学事務室の増員が必要	予算の点で大学事務室の増員は困難であり、事務作業の合理化によって対人対応に割ける時間、人員を増やすしかないと考えられたが、合理化にも予算は必要であり、実現可能な手段を検討する必要がある。	大学事務室の増員について引き続き要望していく
	盗難被害の報告が多い	忘れ物の抑止を進め、私物の管理意識を向上させる	講義室の施錠を徹底しても忘れ物が減らないことから、私物管理の意識向上には繋がらないと思われた。	貴重品の管理について定期的に注意喚起の文書を送り出し、貴重品の管理の徹底と防止について呼びかけている

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等 (2025.3月HP公開内容)	対応計画実行の進捗状況等 (左記のフォローアップ)
	事項(問題点や優れた点)	対応計画等		
薬学部	自宅外から通っている学生の割合が他学部と比べてかなり高い	定期的にクラス会などを開き、学生の心身の状態を把握するように努める。	クラス会の開催を毎月行い、学生の心身の状態の把握に努めている。	継続して実施している。
	前回調査と同様に、学生生活の意義を「勉強や研究」とした学生の割合が最も高かった。	学生が大学生活の意義を審念熟慮する機会を得るために、キャリアバスデザイン講義など生涯学習を含む講義を早期の段階から引き続き実施する。	今年度も「キャリアバスデザイン講義」や「業と社会の探訪」など、生涯学習を含む講義を1年生から実施している。	継続して実施している。
	悩みなど問題を抱えた学生の相談相手として友人が最も多く、一方で誰にも相談しない学生が前回調査より増えている。	定期的にクラス会を開き、悩みを抱えた学生の把握に努めると共に、学生相談室の積極的利用を促す。	クラス会を毎月開催すると共に、学生相談室の案内を掲示板に掲示するなど、学生相談室の積極的利用を促している。	継続して実施している。
	89%の学生が授業に満足しており、前回調査と同様に高い授業満足度を維持している。	引き続き学生のニーズの把握に努め、高い満足度の維持を目指す。	学部学生・大学院生と薬学部教員との懇談会を実施し、学生のニーズを調査している。	継続して実施している。
	ボランティア活動に参加した学生の割合が他学部と比べて低い	クラス会や生涯学習に関連する講義でボランティアへの参加を促す啓発活動・周知を行う。	毎月のクラス会でボランティアへの積極的参加を促している。	継続して実施している。
理工学部 (数理学コース)	質問16にて高等教育の就学支援新制度を知らなかった学生がコース学生の1/4程度いる。	コースガイダンス等を利用して新制度を周知する。	年度始めのコースガイダンスにて新制度を周知してもらう予定である。	引き続き、年度初めのコースガイダンスで新制度を周知する。
	質問23にてアルバイトによって勉学に支障のある学生がいる。	担任が学生と面談する際には悩み・不安がないか聞き取り対応する。また、面談時以外にも担任、学生委員に相談できることを伝える。	面談によって、対象学生との話し合いを続ける。	面談によって、対象学生との話し合いを続ける。
	質問54にてクラス担任制度に大多数の学生は満足している。	今後も、学生との面談を通して学生生活サポートを続ける。	引き続き、学生との面談を通して学生生活をサポートする。	引き続き、学生との面談を通して学生生活をサポートする。
	質問66にて「進路、就職について信頼できる相談相手は誰ですか」という質問に対し、相談相手がいないという学生が数名いた。	担任が学生と面談する際には悩み・不安がないか聞き取り対応する。また、面談時以外にも担任、学生委員に相談できることを伝える。	面談によって、対象学生との話し合いを続ける。	ガイダンスや面談の際に、いつでも相談できること、および誰に相談すればよいのかを伝える。
理工学部 (自然科学コース)	質問14で交通事故経験者が複数いることから、注意喚起の必要がある。	ガイダンスにて注意喚起しているが、さらに強調する。質問12で自転車通学者が多いことから、スマホ運転、傘さし運転、無灯火運転などの道路交通法違反を行わないようにすること、自転車保険に入ることも推奨したい。	9/18及び20日に開催した後期ガイダンスにて改めて周知した。また適切なフィードバックに繋がるため、生活実態調査に協力するよう案内した。	2026年前期・後期ガイダンスで実態調査の結果も示しつつ繰り返し周知した。また、適切なフィードバックに繋がるため生活実態調査に協力するよう案内した(孤独・孤立学生調査の案内でも再通知)。
	質問19～25で生活費や学費のために勉学に支障が出るアルバイトをしている学生が割合的には少ないが一定数いる。	ガイダンスにおいて、計画的なアルバイトを心掛けるよう指導する。適切な相談先(総合相談室等)を紹介する。	同上	同上
	質問21でアルバイトに関し給料の不払いを含むトラブル経験者、質問41で迷惑行為を受けたと報告するものが比較的多い。	ガイダンスにおいて、必要に応じクラス担任または指導教員に随時相談して良いと周知すると共に、併せて学生相談室の利用も紹介する。	同上	同上
	質問41でアカハラ経験2名とあるが、詳細を確認できていない。質問44で学生相談室の認知度が低い	総合相談室の利用方法についてガイダンスで周知しているが、さらに強調する。	同上	同上
	自由記入欄で宗教勧誘された経験が多く報告されている。	カルト宗教等についてガイダンスにて注意喚起しているが、さらに強調する。	同上	同上
	理工学部 (社会基盤デザインコース)	社会基盤に限ったことではないが、通学中に交通事故をおこした事、または交通事故の被害にあった学生が一定数いる(社会基盤では4/87)。	徳島は歩行者と車の分離が不十分な交通状況にあるため、より一層の注意を促していく、具体的には年度始めのオリエンテーションや面談で繰り返し注意するよう指導する。	左記の内容を着実に実施している。
理工学部 (機械科学コース)	自宅生の割合が他コースに比べて少なく、下宿が多いが経済状態については殆どの学生が仕送りを受けており、その他に奨学金やバイトによる収入でやりくりしているようであるが、2割程の学生はバイトにより勉学に支障が生じているようである。勉強や進学についての悩みを抱えている学生が半数に上る。授業が満足できない理由として単位認定の厳しさが他コースに比べて高い。就職情報源がインターネットが多く、キャリア支援室の利用率が低い。またキャリア形成のための学外との関わりについて、無しの割合が他コースに比べて高い。	下宿生の割合が高いため、収入維持のためにバイトは必要であるが、勉学の支障にならないよう、定期的にアドバイザー面談を通して生活状況について確認する必要がある。単位認定の厳しさについてはコース内で情報共有し、多角的な成績評価の促進をはかる。就職情報だけでなくキャリア形成の仕方についてもキャリア支援室の利用促進をはかる。	アドバイザー面談においては履修状況だけでなく生活面にも注意するよう担当教員に依頼した。多角的な成績評価の促進に務めることを教員間で共有した。キャリア支援室の活動については就職説明会での周知、掲示板への掲示による周知を行うようにした。	アドバイザー面談では生活面においても状況の把握に努めている。キャリア支援室の活用については掲示板などを通して引き続き周知に努めていく。
	自由記述欄に宗教による勧誘の記載が多いようである。	オリエンテーションや掲示による注意喚起が必要である。	アドバイザー面談や掲示により周知するようにした。次年度新入生オリエンテーションにおいても周知する。	アドバイザー面談において注意喚起している。来年度の新入生オリエンテーションにおいても周知予定である。

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等 (2025.3月HP公開内容)	対応計画実行の進捗状況等 (左記のフォローアップ)
	事項(問題点や優れた点)	対応計画等		
理工学部 (応用化学システムコース)	質問50、51 授業の満足度 概ね8割の受講生が授業に満足、ほぼ満足と回答しており(質問50)、また、質問51で不満な学生も「授業が難しすぎる」と「つまらない」(=簡単すぎる)がほぼ同数となっている。受講生のニーズ・レベルに合致した授業が実施されている。	今後も授業内容のレベルを保ち、充実させていく。	今後も引き続き授業内容のレベルを保ち、充実させていく。	今後も引き続き授業内容のレベルを保ち、充実させていく。
	質問55 クラス担任制度 クラス担任制度について、意味がない、利用したことが無い、関わりが無い、制度を知らない、あってもなくても変わらない、機能していない、という否定的な個別意見が多い。	多くの学生には必要性を感じられていないようであるが、この結果は、この制度がなくても問題なく学生生活が送れていることの裏返しとも取れる。そもそも、理工学部ではクラス担任制よりも手厚いアドバイザー教員制があり、これが機能していれば問題ないように思われる。	少人数単位で、クラス担任制よりも手厚いアドバイザー教員制度の維持を継続していく。	少人数単位でのアドバイザー教員制度を引き続き維持している。クラス担任は、必要に応じてアドバイザー教員を補充する二重のバックアップ体制として機能しており、この重層的な支援体制を継続している。
	質問58、質問59 図書館 およそ8割の学生が1か月に1回程度以上利用しており、利用頻度が高く、特に自習スペースとして頻繁に活用されているのが素晴らしい。利用頻度が高いためか、空調が過温でないという意見が散見される。	熱中症対策も踏まえて、温度管理を適切に行う。	電気代等の高騰が図書館を含む大学全体の運営に影響を与える状況となっているが、夏季休暇等の利用者が少ない時期の冷房を部分的に停止し、その代わりに6月や9月の冷房期間以外の猛暑日の使用に充てるなどの調整運転を行っている。	期間外については、暑さ指数(WBGT値)や室温を参考にしながら、運用開始の前倒しや延長などの対応をしております。なお、期間外の暑すぎる、寒すぎるといった意見があれば、部屋の状況を確認し対応することとしている。
理工学部 (電気電子システムコース)	気になる症状を抱えている学生が多い。	体調がすぐれない場合、心身の健康の保持促進を図る保健管理センターを利用するよう勧める。(利用者は比較的少ない)	状況時に応じて保健管理センターの利用を進める取り組みを行っている。	周知を継続。利用状況を定期確認する。
	クラス担任制度への不満に関するコメントが多く見受けられましたが、アンケート的(数字的に)には満足しているように感じる。	現状のクラス担任制度で問題ない。過度な教育指導は、学生自身の成長の糧にならないと考える。	現状で問題ないので、引き続き現状の姿勢を継続している。	現状維持。次年度も同項目の推移を確認する。
	進学への意識が高く、つまり研究への関心が高い。	現状で問題ない。SIH道場やSTEM演習の成果と考える。	現状で問題ないので、引き続き現状の姿勢を継続している。	現状維持。次年度も同項目の推移を確認する。
理工学部 (知能情報コース)	質問24、25 生活費や学費のために勉学に支障が出るアルバイトをしている学生が割合的には少ないが一定数いる。	新年度ガイダンス等において、計画的なアルバイトを心掛けるよう指導する。	学生生活への支障ができるだけ出ないよう今後も継続的に指導していきたい。コロナ禍の影響で生活費や学費を得るためにアルバイトに頼らざるを得ない学生もいると思われることから、全学的な対応もお願いしたい。	新年度ガイダンスで指導しており、今後も学生生活への支障が出ないよう継続的に指導していきたい。
	質問30 体調、健康面では、男子より女子の方が体調変化を感じている。	新年度ガイダンス等において、健康面の相談先(キャンパスライフ健康支援センター等)を示す。	今後も引き続き学生へ発信していきたい。相談を受けた場合は迅速な対応を心がけている。	新年度ガイダンスで相談先等を示しており、相談を受けた場合は迅速な対応を心がけている。
	質問40 勉学、就職や進路などの将来への不安・悩みを持っている人が結構いる。	学生委員や担任に相談しやすい雰囲気やコース内に作る。相談があった場合は親身に対応し、場合によっては、適切な相談先(総合相談室等)を紹介する。	今後も親身な対応に継続して取り組んでいきたい。	新年度ガイダンスで相談先等を示しており、今後も親身な対応に継続して取り組んでいきたい。
	質問57 図書館の利用がどのコースより少ない。	情報系の学生なのでネット上の情報を活用している可能性があるが、図書館という情報源もあることを授業内で示してみる。	推薦した学生用図書(図書館から依頼されるもの)の案内なども含め、今後も継続的に発信していきたい。	今後も図書館の利用について継続的に発信していきたい。
	質問68、71 知能情報は工学系他コースより、進学より就職希望の割合が比較的多い。希望職種では教育・研究職希望者は非常に少ない。	ICT人材不足もあって就職を選ぶ学生が多いと考えられるが、研究室内での指導を通じて教育・研究職にも興味をもたせるような工夫をする。	今後も引き続き、研究指導、学生とのコミュニケーションを通じて教育・研究職の魅力などを伝えることに取り組んでいきたい。	今後も研究指導等を通じて教育・研究職にも関心を持ってもらうよう取り組んでいきたい。
理工学部 (光システムコース)	アルバイト従事時間について、回答者の6割以上が週15時間以上、2割強が週20時間以上と回答しておりやや長い。また、アルバイトによって勉学に支障をきたしていると感じている学生もいる。	学期はじめのオリエンテーション等にて、全員にアルバイトに対する考え方について再度周知する。担任、学生委員にいつでも相談できることを学生に伝え、該当学生が積極的に相談できるような環境を作る。	後期初めのオリエンテーションで、アルバイトと学業についての考え方や、相談窓口について周知した。	オリエンテーションで周知している
	睡眠時間について、約半数以上の男子学生、7割近くの女子学生が6時間未満である。また女子学生のほとんどが何らかの症状を持っている	学期初めのオリエンテーション等において、生活習慣の見直し、睡眠の重要性など説明する。(アルバイト時間との関連にも留意する)原因解消の一助として、担任、学生委員にいつでも相談できること、健康面についてキャンパスライフ健康支援センター等で相談できることを紹介する。	後期初めのオリエンテーションで、生活習慣の見直しや睡眠の重要性について説明し、相談窓口について周知した。	同上
	回答者の1/3がオフィスアワーを知らない、1人はないと思っている。またオフィスアワーを知っているが利用したことがない学生の半数以上が、教師に相談するのが面倒、同質問してよいかかわらないと回答している。	学期はじめのオリエンテーション等にて、全員にオフィスアワーについて説明する。質問例を紹介するなどして、質問することへのハードルを下げる工夫をする。	後期初めのオリエンテーションで、オフィスアワーについて説明した。	同上

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等 (2025.3月HP公開内容)	対応計画実行の進捗状況等 (左記のフォローアップ)
	事項(問題点や優れた点)	対応計画等		
生物資源産業学部	(問33) 1回あたりのアルコール摂取量が4合以上5合未満の男子学生が33%と他の部局の学生に比べてかなり高い。	アルコールの危険性についてオリエンテーションで周知する。	次年度のオリエンテーションで周知する予定である。	アルコールコースハラスメントについて、オリエンテーションで周知した。
	(問39・72) 就職や進路に悩みを抱えている学生の割合が40%と他の部局に比べてやや多い。また、他部局と同様にキャリア支援室の利用状況が低い(利用したことがない82%)。	キャリア支援室の利用について講義や実習を通じて学生に周知する。	講義や実習を通じて学生に周知している。	利用状況は次の調査で確認する。
	(問14) 通学中の交通事故は5%と他学部と比べても低い割合であるが、0%を目指す必要がある。	既に学生への注意喚起を行っている。	対応済み	昨年度(4件)と比較し、減少したものの(2件)交通事故は依然として無くなっていない。引き続き、注意喚起を行う。
	(問51) 授業内容がつまらない(69%)、教え方に工夫が足りない(50%)、難しすぎて理解できない(54%)、などと感じている学生の割合がやや多い。	学生にも聞き取りを行い、教務委員会やFD委員会と連携して教育の質を向上させる取り組みを計画・実施する。	学生との懇談会を通じて聞き取りを実施し、教務委員会やFD委員会と連携して検討中である。	授業アンケートで意見を吸い上げ、担当教員に対応を考えていただいている。
	(問54) クラス担任制度に対する満足度が他部局に比べて高い(肯定的な回答92%)。	優れた点なので特に対応計画は無いが、引き続きクラス担任制度の実施に努める。	引き続きクラス担任制度の実施に努める。	現在のクラス担任制を引き続き、実施する。
	(問71) ボランティア(19%)やインターンシップ(29%)やキャリア形成のための学外活動の経験がある学生の割合が他部局に比べて高い。	優れた点なので特に対応計画は無い。	引き続き学生の学外活動の促進に努める。	産業を学部名に持つ本学部の特徴なので、引き続き奨励したい。
	(問67) 大学院への進学希望者が多い(58%)。	博士前期学生が増えれば後期課程への進学者も増える可能性があるため、入試委員会に大学院の定員数の拡充について検討依頼する。	入試委員会で過去5年間の定員充足率を分析した結果、現時点で定員増の緊急性が認められないこと、学生1人当たりの十分な研究環境の確保が不可欠であること等を考慮し、現時点では定員の拡充は見送るという結論となり、博士後期課程のHPの改善など広報活動に力を入れることとしている。	生物資源学専攻博士前期の定員増に向け、本学部入試委員会では検討中であるが、志願者の定員超過傾向が続くかどうか見極めることになった。
	(問16ほか) 生活費や学費のためにアルバイトをしている学生が多いにも関わらず、高等教育の修学支援新制度を知らない学生(22%)や申請していない学生(58%)が多い。	高等教育の修学支援新制度について講義や実習等を活用するなど学生への周知を強化する。	講義や実習を通じて学生に周知している。	今年度は多子世帯への支援制度により支援者数が増加した(申請者12名→74名)。これをきっかけに修学支援制度はある程度周知されたのではと思う。